



AETO & AEP2

Asian and Middle Eastern Studies, Part IA and Preliminary Examination
for Part II

Friday 1 June 2018, 9.00 to 12.00

Paper J3

Modern Japanese texts 1

Answer **all** questions.

Write your number **not** your name on the cover sheet of **each** answer booklet.

STATIONERY REQUIREMENTS

20 page answer booklet

Rough Work Pad

SPECIAL REQUIREMENTS TO BE SUPPLIED FOR THIS EXAMINATION

None

You may not start to read the questions printed on the subsequent pages of this question paper until instructed to do so.

Section A

(1) Translate the following passage from a **seen** text into **English**: [20 marks]

その怒りには、次のようなわけがありました。

ある日、アメリカ軍の兵士が運転する車が、交通事故をおこしました。沖繩の住民をひいて、死なせてしまったのです。けれども、この兵士は、裁判で無罪になりました。

それまでも、アメリカ軍の兵士と沖繩の人がけんかをして、沖繩の人が大けがをしたというのに、アメリカ軍の兵士が何も罰を受けない……といったことが、ひんばんにおこっていました。

アメリカ軍の兵士がおこした事件の裁判が、すべて、基地の中でおこなわれ、いつも、兵士のほうに有利な判決が出ていたからです。

このころは、まだ沖繩は、アメリカが支配していました。日本から見れば、沖繩の人は、日本人ではありません。それで、これまで、アメリカ軍の兵士がおこした事件で、おかしい判決が出ても、日本は何もすることができませんでした。

では、日本人でないなら、アメリカ人か、といえば、アメリカ軍の兵士たちにとって、沖繩の人は、やはり、日本人でしかなかったのです。

沖繩の人は、自分たちが、いったい、どこの国の人間なのか、だれが味方になってくれるのか、さっぱりわかりませんでした。

IKKOKUDŌ, *Boku wa, itsudemo boku datta* (2012), pp. 26-28.

(2) Translate the following passage from a **seen** text into **English** [20 marks].

遊園地は、おもちゃが巨大化したところだ。人形も、人形の家も、木のできた馬も、乗り物のおもちゃも、みんな大きくふくれあがって、見上げるほどになっている。いつもなら、手のひらに乗るようなおもちゃ、簡単に抱き上げることのできるようなおもちゃが、わたしを見下ろしている。あるいは、わたしが縮小化してしまったのかもしれない。だから、何もかもとても大きく見える

だけで、本当はわたしは蟻のように小さくなってしまったのかもしれない。

へおもちゃがこんなに大きいのではね。困った、困った。〳

と独り言を言うと、

へおいおい、おもちゃって何を指して、言っているんだい。〳

という声があった。振り返ると、カエルの人形が学者風の服を着てわたしの後ろに立っていた。こいつは、普段なら、わたしの親指くらいの大きさなのに、今はわたしよりちょっと背が高い。いつもは声など出ないただのおもちゃなのに、今は太い立派な声でしゃべっている。風邪薬を買った時に、薬局でオマケにもらった、おもちゃとさえ言えないカエル。それが、こんなに威張っている。遊園地に来ると不思議なことがあるものだ。

へあなたなんて、ただのオマケじゃないですか。おもちゃ屋にも置いてない。おもちゃでさえないんですよ。〳

とわたしは勇気を振り絞って言った。

TAWADA YŌKO, "Yūenchi wa usotsuki no tengoku", in *Katakoto no uwagoto* (2007), pp. 74-76.

(TURN OVER)

(3) Translate the following passage from a **seen** text into **English** [20 marks].

人々のくらしと身分 ^{えど}江戸時代の社会は、支配者である武士をはじめ、^{ひやくしやう}百姓や^{ちやうにん}町人など、さまざまな身分の人々によって構成されていました。

武士や町人は、^{とよとみひでよし}豊臣秀吉の時代から、政治や^{けいざい}経済の中心である^{じやうかまち}城下町に集められました。江戸をはじめ、全国につくられた城下町では、^{だいみやう}大名やその家来たちが住む武家地、寺や神社の^{ちいき}地域、町人地など、身分によって住む場所が決められました。町人地では、町人たちが^{ちやう}町という小さな社会にまとまり、商業や手工業、流通、文化など、さまざまな仕事を営みました。都市には、城下町のほか、^{もんぜんまち}門前町や^{みなとまち}港町、^{しゆくばまち}宿場町、^{こうざんまち}鉾山町などがありました。

Question 3 continues....

江戸時代の人口の80%以上は、百姓でしめられていました。百姓は、農村や山村、漁村に住み農業や山仕事、漁業などを営んで、米をはじめとする農産物をつくり、山や海から自然のめぐみを得てくらしていました。百姓は、名主（庄屋）とよばれる有力者を中心に、自分たちで村を運営しました。幕府や藩は、こうした村のまとまりを利用し、五人組というしくみをつくらせて、収穫の半分にもなる重い年貢（税）を納めさせたり、いろいろな役（力仕事）をさせたりしました。こうした中でも百姓は、農具を改良したり肥料をくふうしたりして、農業技術を進歩させました。

Atarashi shakai, 6 jo, Tokyo shoseki publishers, 2015, p. 82-84.

(TURN OVER)

SECTION B

(4) Translate the following passage from an **unseen** text into **English**: [40 marks]

新宿へ、新宿から

一九六七年、新宿。

ぼくの日本語はここから始まった。ポケットに二千円を入れて、アメリカから「家出」をするように、新宿にたどりついた。十七歳の誕生日直前だった。

のちに日本語で小説を書くようになり、評論にさらされるようになったぼくが、もっとも多く受けた質問は、

「なぜ日本語にひかれたのか」

「なぜ、わざわざ日本語で書いたのか」

その質問の背景には「母語の英語が世界の中心言語なのに、なぜ周辺言語にすぎない日本語を選んだのか」という大前提があった。

しかしあらためて振り返ると、最初に日本に上陸した十六、十七歳当時、ぼくは日本語が周辺言語であることを知らなかった。そういう実感もなかった。作家になる運命を背負っている人間の特権なのか、中心とか周辺ということに無頓着に、もっと感性のレベル、あるいは人間関係のレベルで日本語に入った。それがぼくの日本語の経験だった。

ぼくの記憶では、昭和四十年代の日本は、現代より「鎖国」していた。鎖国していたと同

Question 4 continues ...

時に、アメリカにない日常が、今よりも濃厚に残っていた。いちいち「日本対アメリカ」というように比較文化的に構えず、またそのような意識もなく、「とにかくおれたち日本人には日本語の領域がある、なぜ白人であるおまえが入ってくるのか」、そういう素朴な拒絶の雰囲気があった。

ワシントンDCという世界の首都から新宿に入り込んだぼくには、新宿がもうひとつの都であるように感じた。それは幻想だったかもしれない。しかし、幻想を抱くことは重要なことだ。幻想がなければ小説を書くことはできない。客観的になってしまふ。評論になってしまふ。

当時ぼくは、横浜のアメリカ領事館内にある父の家に滞在していたが、日本語取得のために早稲田大学の授業を受け始めた。しかし一ヶ月もたたないうちに大学には行かなくなり、新宿のほうへ通うようになった。

それから二十年経って、このころの経験をもとに、ぼくは初めて、『星条旗の聞こえない部屋』という日本語の小説を書いた。

田舎から出てきて早稲田大学に入学し、しばらく授業に出ると大学に行かなくなつて、新宿に入り込む。そんな小説は、おそらく何十冊もある。いわゆるワセダ・リアリズムに沿った道筋だろう。ただ、ぼくの場合は、田舎がワシントンDCだったのだ。

(TURN OVER)

Vocabulary (question 4):

家出	家を出ること	おまえ	君
たどりつく	着く	素朴な拒絶	a simple refusal
評論	criticism	雰囲気	atmosphere
さらされる	to be exposed to	首都	しゅと
ひかれる	to be drawn to	幻想	imagination
背景	背後	抱く	to hold, to
周辺	periphery	客観的	objective (adj.)
無頓着	oblivious, careless, carefree	当時	その時
大前提	great/ large presumption	横浜	Yokohama
振り返る	to reflect, to look back	領事館	consulate
上陸	to enter the continent	早稲田大学	Waseda University
運命	fate, destiny	取得	acquisition
背負う	to shoulder, to bear	～をもとに	on the basis of...
特権	special privilege	星条旗	Stars & Stripes (US flag)
記憶	きおく	田舎	rural, country(side)
鎖国	さこく	おそらく	多分
濃厚に	強く	冊	さつ
いちいち	一つ一つ	沿う	to follow, to align with
対	versus, opposed to		
比較	比べる		
構える	to bear		
とにかく	in any case		
おれたち	we/us		
領域	地域		

LEVY HIDEO, *Wareteki nihongo* (2010), pp. 10-11.

END OF PAPER

One page follows with copy of vocabulary for question 4

Page 8 of 9

Vocabulary (question 4 repeated for convenience):

家出	家を出ること	おまえ	君
たどりつく	着く	素朴な拒絶	a simple refusal
評論	criticism	雰囲気	atmosphere
さらされる	to be exposed to	首都	しゅと
ひかれる	to be drawn to	幻想	imagination
背景	背後	抱く	to hold, to
周辺	periphery	客観的	objective (adj.)
無頓着	oblivious, careless, carefree	当時	その時
大前提	great/ large presumption	横浜	Yokohama
振り返る	to reflect, to look back	領事館	consulate
上陸	to enter the continent	早稲田大学	Waseda University
運命	fate, destiny	取得	acquisition
背負う	to shoulder, to bear	～をもとに	on the basis of...
特権	special privilege	星条旗	Stars & Stripes (US flag)
記憶	きおく	田舎	rural, country(side)
鎖国	さこく	おそらく	多分
濃厚に	強く	冊	さつ
いちいち	一つ一つ	沿う	to follow, to align with
対	versus, opposed to		
比較	比べる		
構える	to bear		
とにかく	in any case		
おれたち	we/us		
領域	地域		